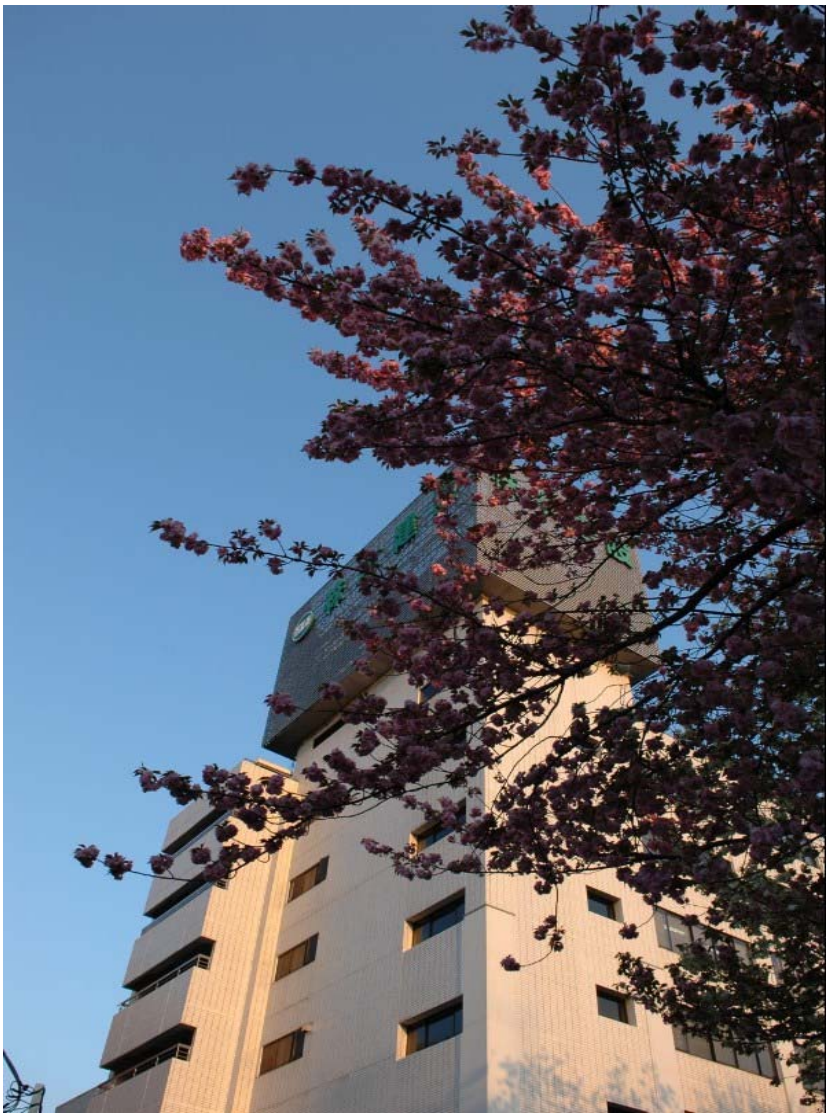
環境報告書２０１７

株木建設株式会社



株木建設環境報告書

1. ご挨拶	1
2. 株木建設株式会社　行動憲章	1
3. 品質・環境方針	2
4. 事業の概要	2
・ 売上高・受注高の推移	
・ 2016 年度　完成工事（事業別、官・民別）比率	
5. 環境目的・目標	3
6. 環境マネジメントシステムの状況	3
・ ISO14001 認証取得状況	
・ 外部審査	
・ 内部環境監査	
・ 環境マネジメント組織と運用体制	
7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み	4
・ 環境パトロールの実施状況	
・ 工事検討会実施状況	
・ 施工体験発表大会	
8. コミュニケーション・社会貢献活動	5
・ 様々な取組み事例	
9. マテリアルフロー、環境パフォーマンス	6
・ 電力使用量、コピー用紙購入量	
・ CO2削減活動実施率、事務用品グリーン調達率	
・ 廃棄物排出量、リサイクル率	
10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み	7
11. 当社グループにおける環境負荷低減技術の開発・取組み例	8
・ バイオガス化処理システム	
12. KCS（カブキ・コンストラクション・システム）改善活動	9
13. 環境報告書作成・発行	10

1.　ご挨拶

東日本大震災、熊本地震などに加え、地球温暖化による気象変動の影響により、各地で豪雨や風雪、竜巻などの大きな自然災害が発生してきています。

そうした中、建設業に身を置く者として、安全で安心・快適な社会環境を構築する一員であることを自覚し、社会的責任を果たしていかねばなりません。

当社はそのために、社会地域貢献活動を始めとし環境関連法規制の順守、環境負荷の低減、環境の保全に努めています。

環境負荷の低減活動について、各作業所の環境目標に掲げ、建設資材のムダの発生、特に施工不良による手直し、手戻りの防止や振動、騒音、粉塵といった建設公害の防止、CO2 の削減活動などに全作業所一丸となり取組んでいます。

当社は、会社が持続的な成長を維持していくために、また社会からの信頼を得るために、更に独自性を発揮する目的で、環境に配慮した施工を標榜し、「TPS（トヨタ生産方式）」を建設業にアレンジした「KCS(カブキ・コンストラクション・システム)改善活動」を推進しています。

この活動は、環境負荷低減を促進し、より品質の高い施工を目指し社員一人一人が自主的に知恵を絞り工夫を加え、改善活動を継続的に実施していく取り組みであり、物づくりと自然を調和させ、かけがえのない良好な地球環境を次世代に受け渡していく一助となると確信しています。

さらに、当社を中核としたグループ企業の取組みの大きな柱として、２０１２年７月からバイオプラントの本格運用を開始し、地域で発生した食品廃棄物をバイオマス資源として循環（食品廃棄物をメタン発酵させバイオガスを回収し、隣接エコプラントの燃料として使用し、同時に堆肥を生産）させています。

これからも、未来に向け「循環型社会構築」を目指し、地域社会の環境保全に貢献し『環境の環』を広げ、人々の生活を支えるグループ企業でありたいと考えています。

2018年4月

代表取締役社長　株　木　雅　浩

2. 株木建設株式会社　行動憲章

Ⅰ.建設にかかわる広範なニーズに、技術開発、良質で安全な企画・設計・施工で対応して顧客満足を得、そして社会資本整備に貢献する。
Ⅱ.公正、透明、自由な競争を行う。また、政治、行政、発注機関、取引先等とは健全かつ公正な関係を保つ。
Ⅲ.株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
Ⅳ.環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、環境の改善と向上にむけ自主的、積極的に行動する。
Ⅴ.「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
Ⅵ.社員の人格、個性を尊重し、安全で快適な職場環境づくりを行う。
Ⅶ.市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、不当、不法な要求は一切拒否する。
Ⅷ.確固たるコーポレートガバナンスのもと健全、堅実な経営を行う。
Ⅸ.役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識しつつ率先垂範の上、関係者に周知徹底する。
Ⅹ.本憲章に反するような事態が発生したときには、役員自らが問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努める。また関係者の権限と責任を明確化し、自らを含めて厳正な処分を行う。

2005 年 12 月制定

3. 品質・環境方針

【品質方針】

卓越した技術と施工により、お客様の要求・期待に応える確かな品質の構築物を提供し、厚い信頼と満足を得る。

1. 迅速で適切な顧客対応を行う。
2. 技術、能力の向上に励む。
3. 経営の質を改善し、顧客満足の向上を目指す。

【環境方針】

環境に配慮した「良い製品」造りと活動を通じて、地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動する。

1. 設計・施工・オフィスの各活動を通じて、環境負荷を低減する。
2. 事業活動による環境汚染の予防に努める。
3. 実行可能なことから環境保全に取組む。

【コミットメント】

1. 品質・環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善します。
2. 顧客要求事項、関連する法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

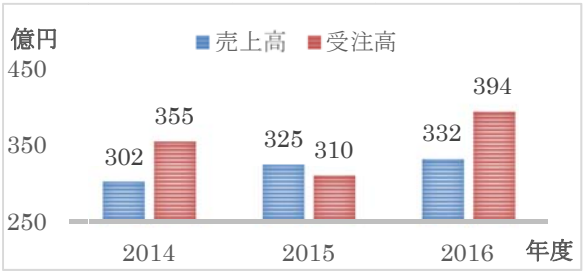
以上、方針達成のために、活動の目的・目標を定め、計画を作成し展開します。

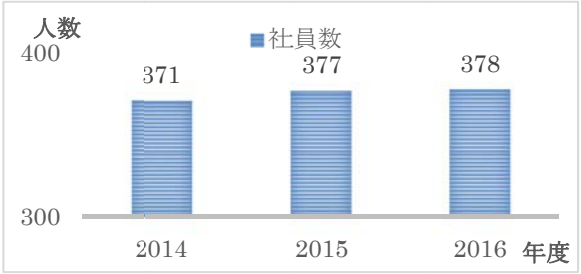
2008 年 6 月制定

社名	株木建設株式会社
沿革	創業 1921 年 4 月
資本金	27 億円
従業員	人数 378 名(2017.5.31 現在)
建設業許可	大臣許可(特-28)第 3 号
業態	総合建設業
主な事業内容	土木・建築ならびに関連業務
事業年度	5 月決算

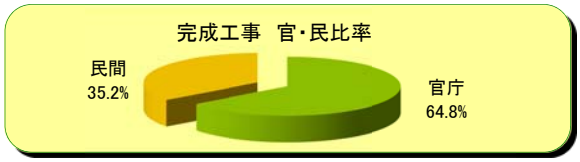
本　　店	310-0845	茨城県水戸市吉沢町 311-1	029-248-0688
東京本社	171-8560	東京都豊島区高田 3-31-5	03-3984-4111
茨城本店	310-0845	茨城県水戸市吉沢町 311-1	029-248-0222
東京本店	171-8561	東京都豊島区高田 3-31-5	03-3984-4120
札幌支店	060-0033	北海道札幌市中央区北一条東 1-4-1	011-221-5084
名古屋支店	460-0008	愛知県名古屋市中区栄 4-7-10	052-249-5685
大阪支店	531-0072	大阪府大阪市北区豊崎 5-8-17	06-6372-5951
九州支店	815-0082	福岡県福岡市博多区博多駅南 4-2-10	092-414-1555

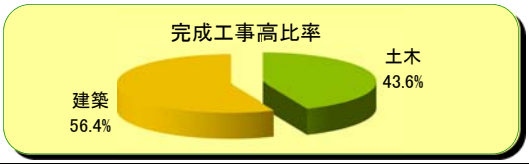
4. 事業の概要

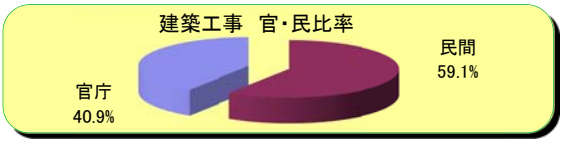


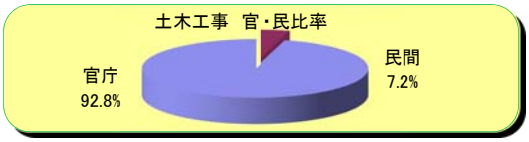


2016 年度　完成工事　事業別(建築、土木)・官民別(官庁、民間)









5. 環境目的・目標

2016 年度 全社環境目的・目標・実績

区分	目 的	目標	実績	評価
施工	工事施工における「ムダを無くす」ことの「ムダ」を定義し、ムダを発生することなく環境改善に繋げる	①施工不良による手直し、手戻り発生防止 ②環境事故防止のための予防処置を講ずる ※上記における防止・予防処置を 1 項目以上立案	①②合わせた目標値(2.0 項目/1 工事) に対する平均値(達成率) 土木: (2.0 項目/1 工事)=100% 建築: (2.1 項目/1 工事)=105%	○
設計	省エネ設計・技法の充実を図り、顧客提案力を向上する	設計物件に対し対応可能な省エネを省エネ提案リストにて提案する	1 物件：採用 7/提案 7=100%	○
オフィス	事務用品のグリーン調達率を向上する オフィス周辺の環境美化を推進する	事務用品のグリーン調達率 92.5%、環境美化の推進(ゴミ削減 4S：整理・整頓・清潔・清掃) 95%以上	グリーン調達率 95.2% 環境美化率 97.1%	○

2016 年度 本社部署目標・実績

区分	目標	管理項目	目標値	実績	評価
土木本部	施工段階におけるCO_2 の削減	施工時CO_2 削減活動実施率調査シートによるチェック	活動実施率 85%	活動実施率 85.8%	○
建築本部	施工段階におけるCO_2 の削減	施工時CO_2 削減活動実施率調査シートによるチェック	活動実施率 90%	活動実施率 80.9%	○
設計部	工事検討会時、作業所の環境改善事例、予防処置、技術情報を提供し支援を行う	工事検討会にて支援実施	支援提案 3 件以上／工事検討会	工事検討会7件 支援提案 37 件 1 検討会当たり 5.3 件>7 件	○
営業本部	環境関連工事への入札・見積参加	継続のためのデータ収集	年間 60 回以上の参加	65 回参加>60 回	○
管理本部	職員の環境意識向上	個別環境活動の実施	環境活動実施率 95%以上	実施率 68/73＝93.2%＞90%	○

6. 環境マネジメントシステムの状況

【ISO14001 認証取得状況】

環境マネジメントシステムを全社一括で、2005 年 10 月に認証取得し、2017 年 9 月に移行/第 4-1 回サーベイランス審査を実施しました。

審査登録機関	MSA
認証取得日	2005／10／20
更新日	2017／10／27
有効期限	2019／11／23
登録番号	MSA-ES-476

【外部審査】

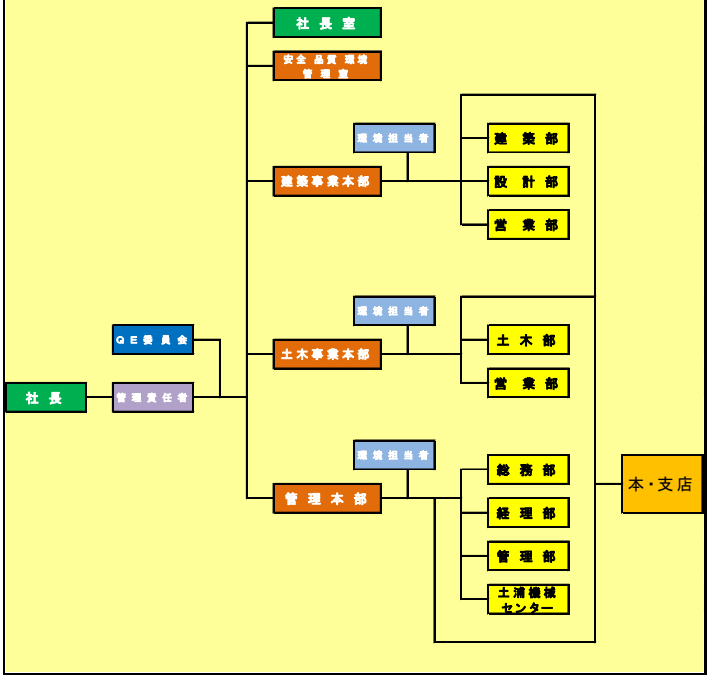
2017 年 9 月に審査登録機関(株)マネジメントシステム評価センターによる移行/第 4-1 回サーベイランス審査を受審しました。
審査結果は、是正要求はなく、充実点 4 件となりました。

項 目	2016 年度
改善指摘	0 件
改善の機会	0 件
観察事項	0 件
充実点	4 件

【内部環境監査】

環境マネジメントシステムの運用状況を把握し、継続的に改善をはかるため、常設部署及び作業所の内部環境監査を実施しています。
2016 年度は、常設部署の定期監査を 2 回実施(19 部署)し、作業所内部監査は安全パトロール時に同時に実施することとし、18 作業所に対し実施し、指摘事項はありませんでした。

環境マネジメント組織と運用体制



7. 環境汚染予防・環境保全活動の取組み

地球環境の保全と地域環境への貢献を目指して活動することとした環境方針を受け、工事施工を進める上で、法的及びその他の要求事項等を順守して施工を行っているか安全衛生環境パトロールの実施や一定規模以上の工事に対して、その工事特性・周辺の環境に配慮した環境汚染予防・環境保全活動に対する事前工事検討会の実施、更に環境に配慮した創意工夫、活用技術事例の施工体験発表大会を開催し、技術・経験の共有化を図るなど環境汚染予防・環境保全活動の様々な取組みを行っています。

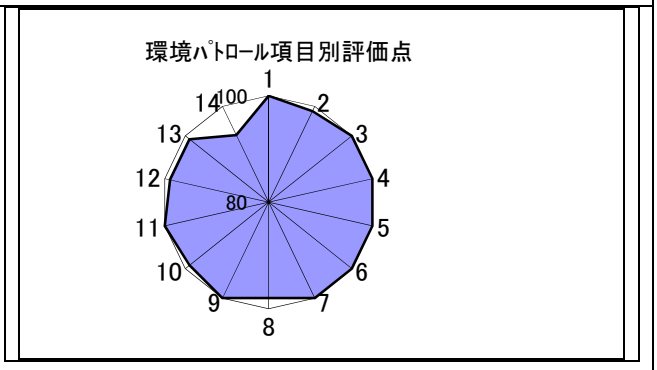
【環境パトロールの実施状況】

工事施工部署は、法的及びその他の要求事項等を順守し社会的責任を果たすため、各作業所に対して安全衛生環境パトロールを実施し改善を図っています。

作業所は、工事開始前に、法的及びその他の要求事項を間違いなく順守するよう計画し、チェックを実施しながら活動しています。

2015 年度は、チェック結果及び事象から評価して、法的及びその他の要求事項を順守していると判断しています。　（点検項目）

1.緊急事態の対応準備	6.路面維持・、排水状態	11.大気汚染、騒音・振動
2.環境一般	7.埋設物・空中線管理	12.土壌・地下水汚染
3.環境側面	8.建設・副産物管理	13.地盤沈下
4.法規制順守	9.近隣の苦情、要望事項	14.有機・化学物質の SDS 情報に基づいた取扱い
5.交通対策の措置	10.飛散、粉塵	



2016 年度実施回数	法遵守結果
291 回	指摘 18／総点検 1929=0.93%

【工事検討会実施状況】

現業本部では、一定規模以上（土木3億、建築5億）の工事や特異性のある工事について、その工事特性に応じた適切な施工が出来る様、社長をはじめ同種工事の経験者や設計・技術部門の担当者等を交えて、工事検討会を実施し、環境の他、施工、品質、安全衛生とあらゆる角度から知恵を出しあい、予防処置を検討し改善をはかっています。

本部工事検討会実施対象でない工事については、各拠点（地区）にて同様に検討会を実施しています。

◆本部工事検討会実施回数◆

工事区分	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
建築工事	4 件	11 件	9 件	9 件	13 件
土木工事	4 件	14 件	11 件	11 件	13 件
合　計	8 件	25 件	20 件	20 件	25 件

【施工体験発表大会】

当社では、2年に一度、完成工事の中から優れた施工で成績の優秀であった工事を選定し、施工体験発表大会を開催しています。

これは、全社員が現場で活用された技術や経験を共有化すると共に、各人のプレゼンテーション能力向上を目指しているものです。

平成29年度施工体験発表大会では、それぞれの異なる施工において活用した技術、創意工夫、環境配慮の事例等に関する体験情報が、参加者全員に伝えられました。

・平成 29 年度施工体験発表大会（2017.11.18）

8. コミュニケーション・社会貢献活動

【様々な取組事例】

【現場の取組み】

建設工事の円滑な施工には地域社会の理解と協力が必要です。株木建設は地域とのコミュニケーションの重要性を深く認識し、地域社会への情報発信を積極的に行うことによって、お互いの理解を深めることができると考えています。
市民マラソン大会への協賛や現場見学会、様々なイベント等を企画し、地域・地元との交流を通じて、コミュニケーションの推進や地域貢献に努めています。又、地域のボランティア活動、自然環境保全活動に積極的に取組んでいます。

【現場見学会】

完成した工事、工事施工中の様々な工事に於いて地元住民、児童や発注者、研修生を対象に現場見学会を実施し、現場を身近にに触れてもらったり、完成した出来映えを実感してもらい、工事への理解とコミニュケーションの推進に努めています。

・完成消防署のお披露目見学会（地元児童）

・堤防工事完成お披露目見学会（地元住民）

・施主見学会（国交省）

【協賛水戸黄門漫遊マラソン大会への参加】

水戸市のPRと地元経済の活性化を目的に新たに開設された水戸市内を駆け抜けるフルマラソン大会「水戸黄門漫遊マラソン」に協賛し、当社から社員多数がランナーと参加し、またボランティアに参加しています。

・ランナー

・ボランティア参加者

【地元地域貢献活動の実施、自治会から感謝状の受領】

工事を進めるに当たって地元要望事項を積極的にくみ取り、毎月の沿道清掃、草刈活動、工事ニュースの作成・配布などの地域貢献活動が評価され、感謝状を受領しています。

・町内会長より感謝状授与

・感謝状

【地域の環境保全活動】

各地域において地元行政機関が主催・後援する環境保全活動に参加しています。

・仙台塩釜港周辺道路清掃活動

・和白干潟清掃活動

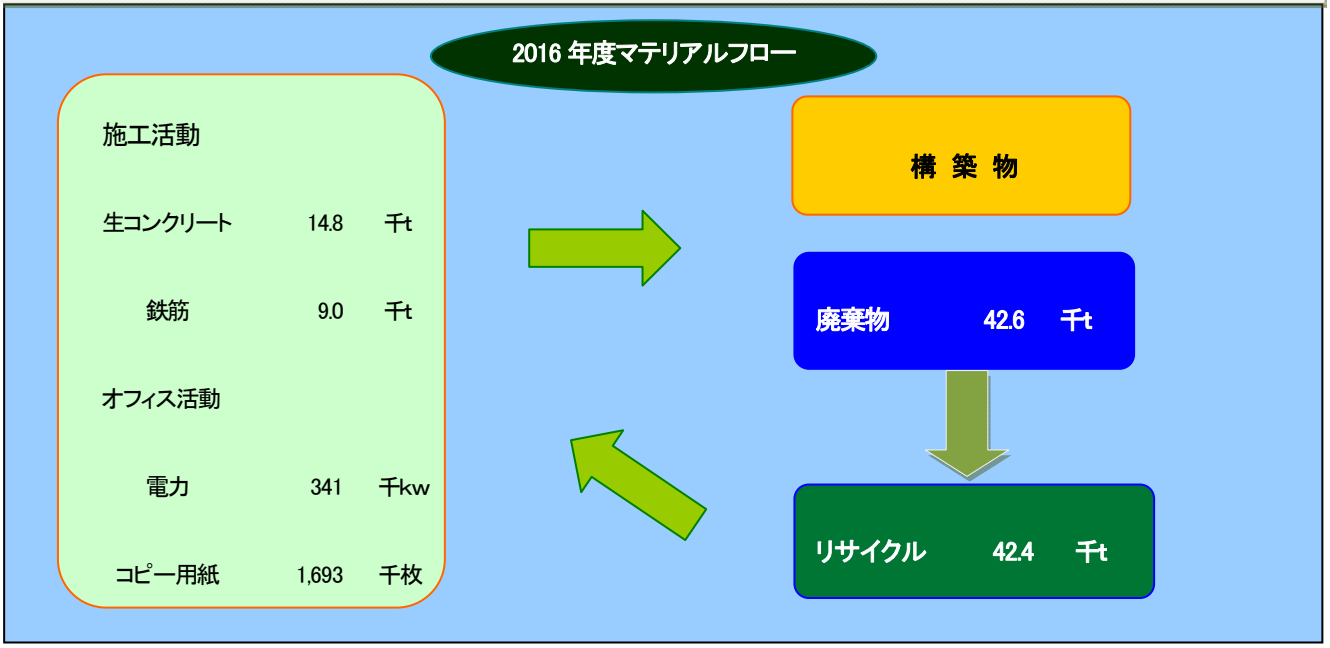
【事業所個別のボランティア活動】

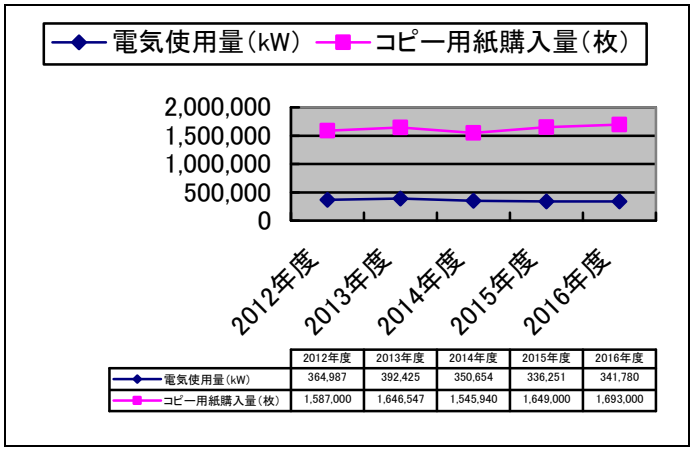
茨城本店では、当社独自に水戸市桜川河川敷の清掃活動、水戸市主催桜川水系クリーン作戦に参加し、定期的に清掃ボランティア活動を行っています。

・水戸市桜川河川敷清掃活動

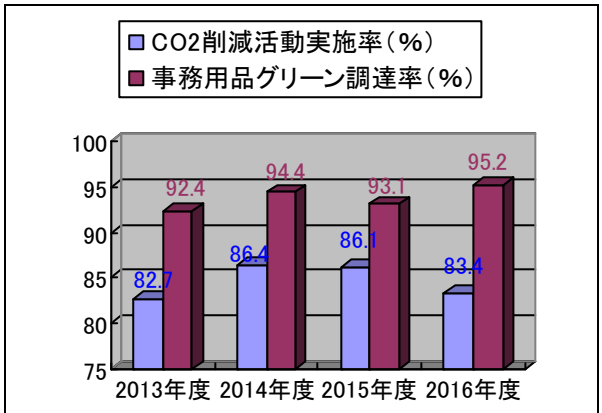
・水戸市主催桜川水系クリーン作戦

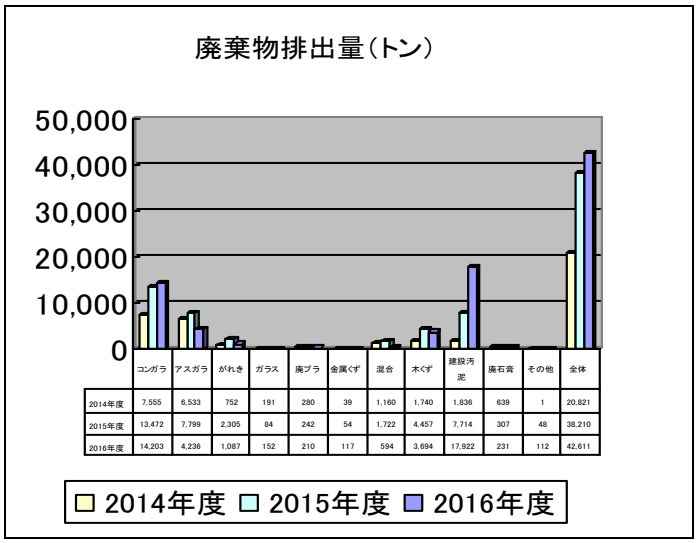
9. マテリアルフロー、環境パフォーマンス



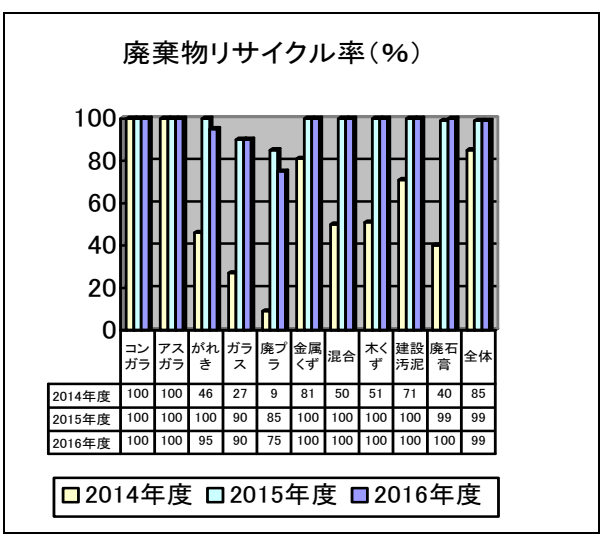


	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
電気使用量(kW)	364,987	392,425	350,654	336,251	341,780
コピー用紙購入量(枚)	1,587,000	1,646,547	1,545,940	1,649,000	1,693,000





	コンガラ	アスガラ	がれき	ガラス	廃プラ	金属くず	混合	木くず	建設汚泥	廃石膏	その他	全体
2014年度	7,555	6,533	752	191	280	39	1,160	1,740	1,836	639	1	20,821
2015年度	13,472	7,799	2,305	84	242	54	1,722	4,457	7,714	307	48	38,210
2016年度	14,203	4,236	1,087	152	210	117	594	3,694	17,922	231	112	42,611



	コンガラ	アスガラ	がれき	ガラス	廃プラ	金属くず	混合	木くず	建設汚泥	廃石膏	全体
2014年度	100	100	46	27	9	81	50	51	71	40	85
2015年度	100	100	100	90	85	100	100	100	100	99	99
2016年度	100	100	95	90	75	100	100	100	100	100	99

10. 自然環境、住環境保全、地球温暖化防止の取組み

【生物多様性に配慮した取組】

工事施工場所付近に希少植物である「クモキリソウ」「サイハイラン」が植生していることが確認されたため、移植し、直射日光に弱い習性があるので、日除け防止措置を講じ保護を行った。

・クモキリソウ

・サイハイラン

・移植

・日除け防止

【騒音・振動環境対策】

市街地施工時、近隣住民からの苦情要因となる騒音・振動防止に向けた様々な対策を講じ自然環境、住環境保全の取り組みを行っています。

・バックロックを使用しての騒音・振動軽減

・立坑周囲に防音シート設置

・近接する民家側への防音対策

【建築総合環境性能評価システム（CASBEE）にて評価「A」を取得】

環境負荷低減・省 CO2・省エネルギーに成果を上げ、その普及効果が期待される先導的な建物を施工した中で、評価「A」を取得することが出来ました。

・地中熱利用空調設備の設置（地下熱を利用した空調設備を用いることで省エネの建物を施工＝地中熱利用井戸の施工）

・自動換気窓の採用

【日本野鳥の会の活動をサポート】

当社は、長年にわたり法人特別会員として日本野鳥の会の活動をサポートしており、公益財団法人日本野鳥の会が発行した小冊子“ヒナとの関わり方がわかるハンドブック”に応援企業として当社名が掲載されています。

日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

【地球温暖化防止活動】

施工に使用する発電機・建設用重機や運搬車両からの排気ガスを抑制するための啓蒙活動や、全作業所を対象に施工におけるCO2 削減活動に取組んでいます。

◆実施事項◆

・「ストップ・ザ・CO2 横断幕」「絵で見る省燃費運転マニュアル」等を作業所へ配付しています。　発行:（一社）日本建設業団体連合

・「アイドリングストップステッカー」を作成し、作業所へ配布を行い各重機、運搬車輌へ貼付、掲示等をしています。

・日建連が主唱するCO2 削減活動に倣い、全作業所を対象に施工におけるCO2 削減活動を環境目標に掲げ、展開しています。

【啓蒙活動】

「ストップ・ザ・CO2横断幕」「アイドリングストップステッカー」を配布し、重機・ダンプに貼付させ、CO2削減活動を積極的に推進しています。

・ストップ・ザ・CO2 横断幕

・当社作成 CO2 削減啓蒙ステッカー

【その他の環境に配慮した施工】

様々な施工状況において、周辺環境に影響を及ぼすことが予測される場合は、環境負荷に配慮し施工を行っています。

・濁水流出管理

・集塵機を使用してのｺﾝｸﾘｰﾄ切断

・デジタル表示による法規制順守

11.　グループにおける環境負荷低減技術の開発・取組み例

【バイオガス化処理システム】

国内初の「焼却施設・バイオガス化処理のハイブリット型総合リサイクルセンター
日立セメント株式会社　神立資源リサイクルセンター　　バイオプラント稼働

神立資源リサイクルセンターバイオプラントは、地元の家庭系生ごみや食品廃棄物系のバイオマス資源をメタン発酵・発酵堆肥化によりバイオガスエネルギーと堆肥にリサイクルする施設で、平成 24 年 3 月 26 日に竣工し、7 月から本格稼働しています。

既設エコプラントと連携して、バイオガス・熱エネルギーの効率的利用を図ることができ、食の循環に寄与する食品リサイクル法にも対応した施設です。

神立資源リサイクルセンターバイオプラントは、「土浦市バイオマスタウン構想」の中核施設として、以下に資すべく、整備いたしました。

①循環型社会形成への寄与

生ごみ・食品廃棄物のリサイクル

②地球温暖化防止への寄与

バイオガスを化石燃料の代替とすることによるCO2 の削減

③農業活性化への寄与

生産堆肥の農地還元による有機農業の普及拡大、食の循環の推進

④社会資本整備に係る行政コスト削減への寄与

焼却ごみが減ることによる土浦市清掃センターの負荷軽減、最終処分場の延命化

⑤新しいバイオマス利活用技術の実証、普及への寄与

焼却・バイオガス化の融合（ハイブリット化）による効率的なバイオマスエネルギーの利用

神立資源リサイクルセンター全体図

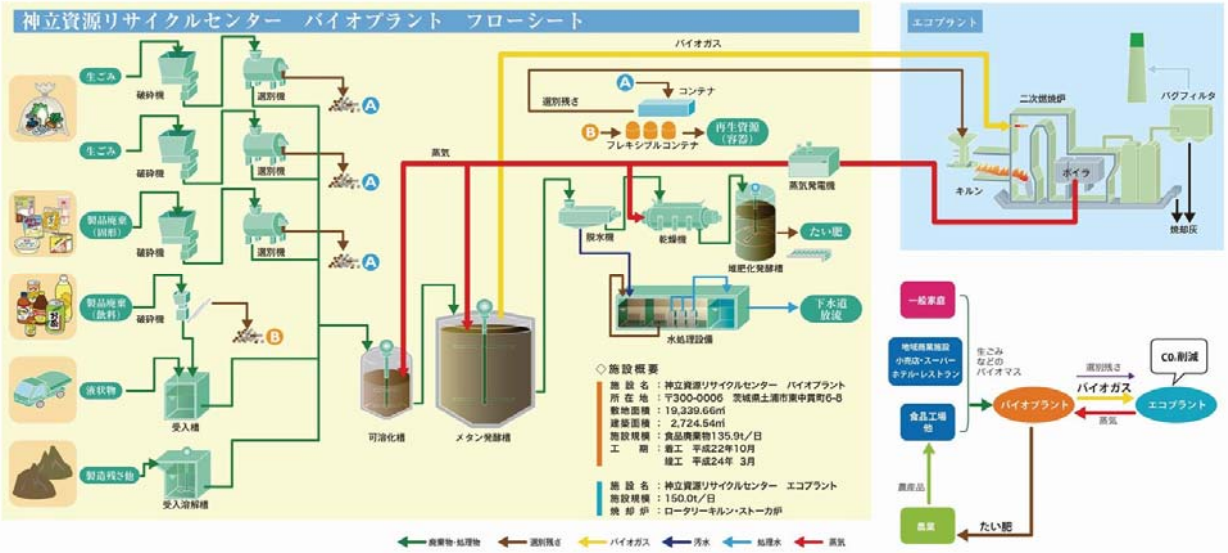
バイオプラント

生物のちから・・・自然の循環メカニズムに倣ったリサイクルです

バイオプラントのリサイクルは、大きく分けて「嫌気発酵（メタン発酵）」および「好気発酵（堆肥化発酵）」の二つの生物処理（発酵）により行われます。

メタン発酵では、有機物がメタン発酵により無酸素下で分解され、その際、バイオ燃料であるバイオガス（メタンガス）が生み出されます。このバイオガスを重油代替として利用することで、化石燃料の使用量削減を図ります。

堆肥化発酵では、有機物が多数の微生物群により有酸素下で分解され、有機堆肥を作ることができます。メタン発酵を終えた残さには、多くの肥料要素が残っているため、「バイオ燃料」のみならず「有機堆肥」にまで、バイオマス資源を余すところなく活用することができます。有数の農業生産地域でもある地元茨城県で農地還元が可能となり、地域での食の循環を推進するものともなります。



12.　KCS（カブキ・コンストラクション・システム）改善活動

【「KCS改善活動を展開】

◆当社においては、「工程・原価・品質・安全・環境」に関する不適合事例を改善すべく会社内で同じミスを2度と繰り返さないよう、また、トラブルや問題を現場だけで抱え込まないように、マネジメントシステムの中にいくつかの仕掛けを取入れて実施しています。その中の主要な一つが『KCS（カブキコンストラクション・システム）』です。

◆KCS（カブキ・コンストラクションシステム）について

当社は、建設業では初めて「トヨタ生産方式（TPS）」による「改善活動」のキックオフを 2008 年に行い、モデル現場において試行錯誤を繰り返しながら、建設業に適応させた独自の『KCS（カブキ・コンストラクション・システム）』へ変換し、全社へ展開して自社の独自性を発揮すべく鋭意活動を展開しています。

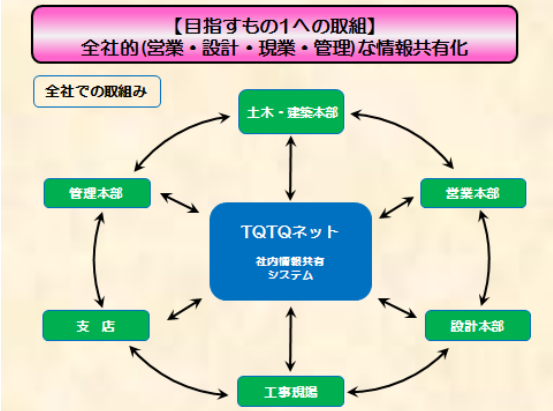
【当社が目指しているKCS改善活動】

目指すもの1

発注者からの必要な**情報**を営業・設計・土木・建築・管理・支店・工事現場が確実に共有すること。

目指すもの2

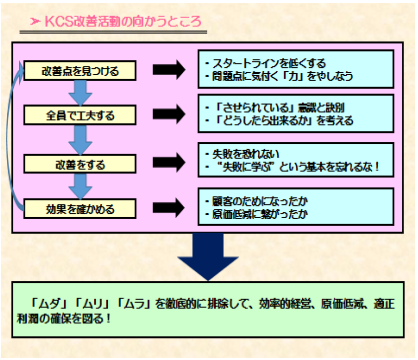
現場の所長・協力会社・作業員が誰であっても、「後工程はお客様」、つまり、**後の工程に不具合をまわさない**という「TPS」の思想を理解して、その結果、発注者に信頼を得られる優れた施工を永続すること。

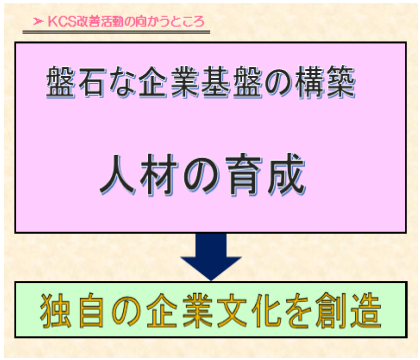


【KCS改善活動をさらに一歩前へ】

過去事例も含め、皆が活動に参加し、見える化手法を上手く取り入れ、情報の共有化を図り、改善の効果が、数値などを用いることでより評価しやすい取組みを構築し、KCS改善活動をさらに一歩前へ推し進めています。

【KCS改善活動の向かうところ】





【後工程への思いやり運動ポスター化】

株木建設株式会社

【社内全体で知識・技術の共有化】

KCS 改善活動を積極的に推進し、発注者の評価につなげ優秀な成績で竣工した土木・建築の作業所の活動事例を施工体験発表大会、フォロー会の開催やイントラネットに掲載し情報の共有化を図っています。

・施工体験発表大会

・フォロー会の開催

13. 環境報告書作成・発行

対象組織	株木建設株式会社
対象期間	2016 年度（一部 2017 年度活動含む）
主な加盟している業界団体	（一社）日本建設業連合会
	（一社）日本埋立浚渫協会
作成部署	安全品質環境管理室
お問合せ先	東京本社　安全品質環境管理室
	TEL：03-3984-4150
	FAX：03-3984-6900
	Mail：webmaster@kabuki.co.jp

株木建設株式会社

http://www.kabuki.co.jp/

2018 年　4 月発行